

総括質疑

9月12日、令和3年度の決算について、予算決算常任委員会の総括質疑が行われました。

今回は、湯和会・公明2人、政和会1人、湯沢政策研究会1人の計4人が会派を代表して質疑を行い、令和3年度の各会計の決算の内容についていただきました。

ここでは、質疑の内容の一部を抜粋して掲載します。

「湯和会・公明」
兼子 正寛 委員



○湯沢駅周辺複合施設等整備事業について

質疑 民間活力の導入が期待できない状況で、公共機能のみの複合施設整備をしていくのか伺う。

答弁 まずは公共部門を先行して整備していく。また、子どもたちが屋内で遊び、ゆつくりコミュニケーションができる場所や機能を整備していきたい。

○企業誘致対策事業について

質疑 企業誘致活動の具体的な取り組みと、今後の展開について伺う。

答弁 県と連携し企業誘致活動を行っている。今後は地熱資源の活用や付加価値が高い研究施設などの誘致の可能性を探っていく。

○ビジネス支援センター事業について

質疑 ビジネス支援センターの今後の展開について伺う。

答弁 事業者に寄り添った相談体制は重要であり、関係団体や金融機関と伴走しながら支援する体制を構築していく。また今年度に事業評価を実施し、事業の検討に入る。

「湯和会・公明」
柏原 久寿 委員



○生活バス路線運行対策事業について

質疑 公共交通に対する市民満足度について伺う。

答弁 5段階評価のうち、公共交通の整備と利用促進の項目については「満足」と「やや満足」を合わせた合計が26・9パーセントと

なり、令和元年度と比べると4・8ポイント上昇している。

質疑 持続可能な公共交通ネットワークの構築について伺う。

答弁 今後は、人口減少と高齢化の進行により、公共交通に対する要望は増えるものと予測している。湯沢市地域公共交通活性化協議会で議論し、来年度策定予定の地域公共交通計画に結び付けていく。

○放課後児童健全育成施設整備事業について

質疑 雄勝小学校区で運営されている児童クラブの再編集約に向けた具体案について伺う。

答弁 保護者からは、現状のまま地域にクラブがあったほうがよいが、将来的な児童数、安全面を考えると集約はやむを得ないという意見をいただいている。また、施設の配置については、令和7年4月ごろを目指して、学校校舎内や学校敷地内などへの配置を考えているが、再編成は保護者および地域の合意を得てから進める。